

令和8年2月26日

富田林市立第二中学校
校長 森本 崇寛

令和7年度学校教育アンケートの結果について

解氷の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育推進にご支援ご協力を賜りお礼申し上げます。併せて、学校教育アンケートのご協力いただきましたこともお礼申し上げます。さて、アンケート結果を分析させていただき、その概要と今後の課題についてお知らせをいたします。

～分析と考察～

今後も継続していく点

【生徒アンケート】より

昨年度に引き続き、ほぼすべての項目で肯定的割合が90%前後の高水準です。これは、学校の様々な教育活動に対して、多くの子どもたちが前向きに取り組んでいる結果と捉えております。また、教職員と子どもたちとの関係性も一定良好であると判断いたしました。

特に、【質問4 先生は、質問について親切に答えてくれる】が昨年度よりも8ポイント上昇していることが大変喜ばしく感じております。今後も引き続き一人ひとりと向き合う姿勢を大切にまいります。

【保護者アンケート】より

【質問1 子どもは、楽しく学校に通っている】のポイントが年々上昇しています。行事や生徒会活動、人権教育に対しても肯定的割合が高くなっています。今後も、一人ひとりが生き生きと学習ができる学校をめざして教育活動を実施していきます。また、防犯や環境整備に対しても高評価をいただきましてありがとうございます。引き続き、安全・安心な学校運営を心掛けてまいります。

改善していく点

【生徒アンケート】より

【質問8 宿題は、適切な内容や量になっている】の肯定的割合が昨年よりは上昇しましたが、まだまだ低水準です。ドリルパークの活用や、単元別に区切ったの提出、教室での宿題の見える化などはしておりますが、まだまだ困り感の解消には至っておりません。また、高等学校等への進学をした場合、「ワーク〇〇ページをテストの日に提出」という課題設定はまだまだ主流であります。一人ひとりに寄り添う学びのサポートと将来に向けてのトレーニング。その両方の視点を持ちつつ、引き続きとりくんでまいります。

【保護者アンケート】より

【質問6 授業は、規律がしっかりし落ち着いた雰囲気の中で進められている】の肯定的割合が急激に低下しております。子ども一人ひとりの自己調整力を高め、主体的・協働的に授業を進める。そのために、多くの発言や疑問、とまどいや不安によるさまざまな声が、一昔前の教室よりも格段に増えてきているのは事実です。しかし、「わからなくても話を最後まで聞く。」「課題に取り組むときは黙ってする。」「自分が終わっても周りがまだなら黙って待つ。」といった基本的な規律の指導が浸透しきれていない部分もあります。今後も繰り返し、個人にも集団にも訴え続け、望ましい学習環境を作る努力を続けてまいります。

【質問15 子どもは、自分の悩みを学校に相談しやすいと言っている】も2年前より急激に低下しております。教員がやらなければならないことに忙殺され、子どもに向き合えないのは本末転倒です。やらなければならないこと（学校行事や部活動）の精選を進めつつ、いつでも相談できる環境に近づけるように学校運営を進めてまいります。